

2024年11月19日（火）【外為L a b】松田哲

タイトル：【トランプ新政権に面してのクリスマス相場】

今年（2024年）も残すところ、おおよそ1ヵ月となった。

今週末の土曜日には、「勤労感謝の日（11月23日）」が控えている。

毎年11月の第4木曜日は、米国祝日の「サンクスギビングデー（感謝祭）」だから、今年は、来週の木曜日（11月28日）だ。

日本の「勤労感謝の日」と米国の「感謝祭（サンクスギビングデー）」が終わると、毎年、「クリスマス相場」に突入する。

+++++

今年（2024年）は、米国大統領選挙の年だった。

そして、その米国大統領選挙は、つい先日（2024年11月5日）のことだった。

今年の米国大統領選挙は、トランプ氏とハリス氏のデッドヒートが喧伝された。

大統領選挙の当日まで接戦が報じられて、事前予想では全くの互角だった。

ところが、蓋を開けてみると、早々にトランプ氏の優勢が伝えられた。

その後も、時間の経過に伴い、トランプ氏の優勢が明らかになった。

そして、事前の予想では、米国大統領選挙の結果は、早くとも数日以上のかかる時間がかかると報道されていたにもかかわらず、ほぼ翌日には、トランプ氏の当選が確定した。

+++++

トランプ氏の米国大統領就任が決まってから、新政権の人事が次々と発表されている。

トランプ新政権の発足は来年（2025年）になるものの、その影響は、既に生じている、と感じます。

南米ブラジルで開かれているG20（主要20か国首脳会議）では、来年（2025年）のトランプ新政権への対応を配慮した様子で、出席した各国首脳は、自らの立ち位置を明確に表明しなかった。

大国である米国のスタンスが明らかにならないと、どのように対応するのか、その方針が定まらないからだろう。

それ程に、トランプ新政権は、注目を集めている。

+++++

米国の金融政策に関しても、同じことが言えそうだ。

先に述べた通りに、来週の木曜日（11月28日）、米国祝日の「サンクスギビングデー（感謝祭）」が過ぎれば、「クリスマス相場」に突入する。

今年（2024年）の「クリスマス相場」は、来年（2025年）年明けのトランプ新政権のスタンスが明らかにならない状況下で迎えることになる。

+++++

「クリスマス相場」とは、市場参加者が極端に少なくなり、為替レートが、ほとんど動かなくなる状況を指す。

そして、ひとたび重大なニュースがあると、市場参加者が極端に少ないために、為替レートが飛ぶように大きく変動する。

マーケットに厚みが無く、為替レートの振れ幅が大きい状態になるのだ。

当然のことながら、為替レートに影響を及ぼすような重大なニュースがあるのか、無いのか、事前には、誰にも分からない。

つまり、「クリスマス相場」は、そもそも、その対応が難しい相場つきであることに、間違いはない。

だから、毎年、「クリスマス相場」が近づくと、積極的に参入しないことを推奨している。

+++++

だから、今年（2024年）の「クリスマス相場」は、その対応が難しいことひとしおだ、と考えます。

各国の首脳でさえ、慎重な姿勢を示しているのだ、いわんや一市場参加者においてをや。

++++
++++

(2024年11月19日東京時間13:05記述)